

西小千谷市街地地区

(新潟県小千谷市)

- 計画期間 令和元年度～令和5年度
- 面積 51ha
- 交付対象事業費 4,305.1百万円
- 市人口 33,934人

ポイント

- ・ 中心市街地における遊休資産の活用
- ・ 民間活力導入による中心市街地活性化

地区概要

古くから商店街が立ち並ぶ当市の中心市街地であるが、市民ニーズの変化や多様化、幹線道路沿いへの大規模小売店舗の出店、長年にわたり賑わいや交流の創出に寄与してきた総合病院の郊外移転等を背景に活力が低下している。

目標

中心拠点誘導施設（図書館等複合施設）の整備、当該施設とまちなかとの連携したソフト施策により回遊性を高め、中心市街地における「賑わい・交流・憩いの創出」を図る。

指標

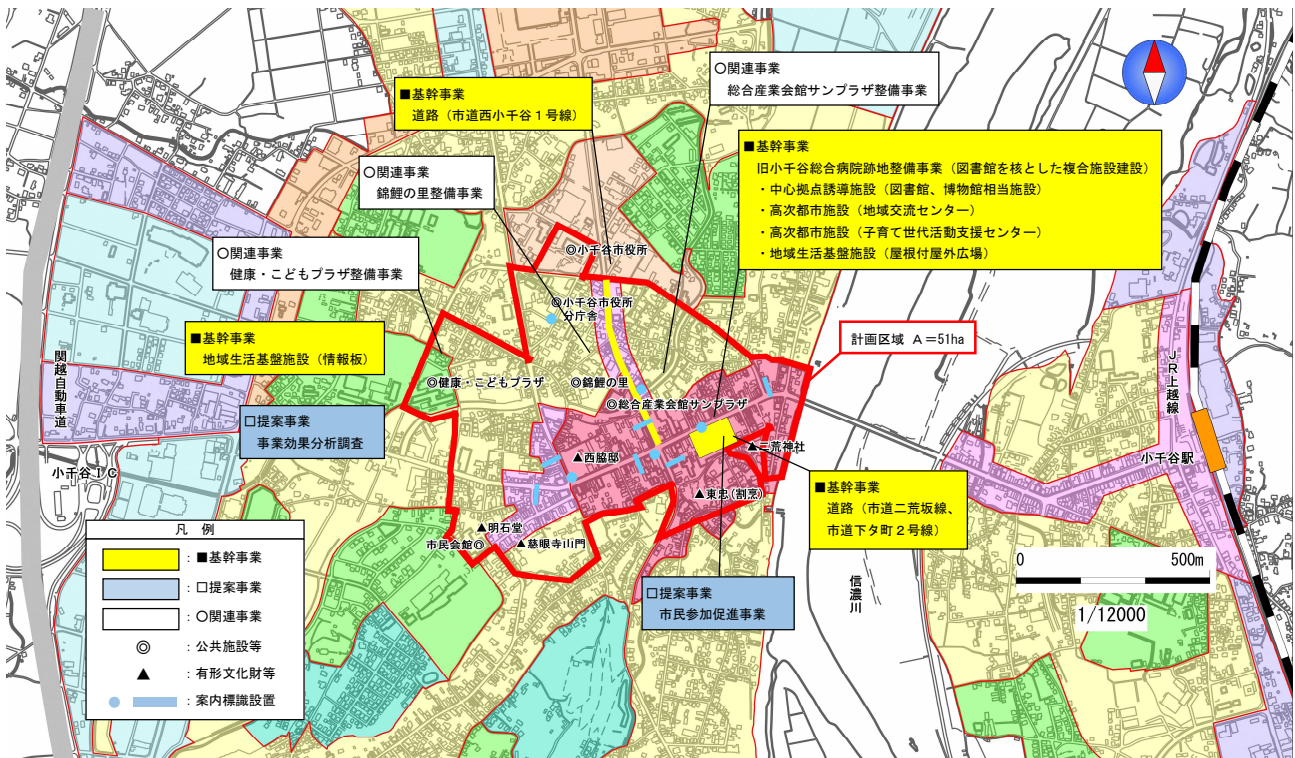
下記指標により中心市街地における賑わい創出の効果を計測する。

項目	従前値 (年)	目標値 (年)
市立図書館利用者数	70,500人/年 (H29)	168,000人/年 (R5)
休日の歩行者数	341人/日 (R1)	830人/日 (R5)
まちなかと連携したイベント活動への参加者数	0人/年 (H29)	1,240人/年 (R5)

事業内容

基幹事業：4,279.5百万円

- 旧小千谷総合病院跡地整備事業(図書館等複合施設整備)：4,030百万円 ・ 市道二荒坂線付替：112.0百万円
- ・ 市道下夕町線改良：37.5百万円 ・ 市道西小千谷1号線歩道整備：50.0百万円 ・ 案内標識設置(11基)：50百万円



地区の現況と課題

【現況】

本町商店街などで構成される当市の中心市街地である西小千谷市街地地区は、従来から地域住民のみならず、市民の暮らしを支える役割を果たしてきたが、市民ニーズの変化や多様化、幹線道路沿いへの大規模小売店舗の出店などを背景に、商店や売上高の減少、空き店舗の増加など衰退が進んでいる。また、この商店街に100年以上にわたって立地し、中心市街地における賑わいや交流の創出に寄与してきた（公財）小千谷総合病院が平成29年3月に郊外へ統合移転したことに伴い、中心市街地の更なる活力の低下が懸念されている。

【課題】

病院が移転したことで、これまで中心市街地が中心となっていた人々の流れや動きが分散し、中心市街地の拠点性が薄れることが懸念される。そのため、求心力を高める拠点の整備とともに、中心市街地への連絡性の強化などにより、人々の流れや動きを中心市街地に誘導することが必要。このことにより、中心市街地内の回遊性が高まり、活力の再創出につながることを期待される。また、求心力を高める拠点が整備されれば、施設利用者が商店街で買い物をしたり、周囲を散策するなど、中心市街地の賑わいや活気につながる波及効果が期待されるが、現状ではその効果を十分に発揮することは難しい。そのため、買い物をしたくなる魅力的な商店街、周囲を散策したくなる快適な歩行空間、それらを実現するための官民連携の体制づくりなどを整えることが必要である。



旧（公財）小千谷総合病院



本町商店街



小千谷リビングラボ（令和3年3月～）
※令和4年3月までに6回開催

計画策定プロセス

【旧小千谷総合病院跡地整備事業】

平成28年3月	西小千谷地区市街地まちづくり基本計画の公表
平成29年6月	旧小千谷総合病院跡地整備計画の公表
平成30年3月	小千谷市立図書館及び（仮称）小千谷市立郷土資料館基本計画の公表
平成31年3月	PFI実施方針の公表
令和元年6月	PFI特定事業の選定
令和2年1月	優先交渉権者の決定
令和2年3月	優先交渉権者の取消
令和2年9月	新たな事業手法の決定（従来手法×PPP）
令和2年12月	図書館等複合施設 設計業務公募型プロポーザルの実施
令和3年3月	病院建物解体完了
〃	小千谷リビングラボ（市民ワークショップ）の立ち上げ
令和3年4月	図書館等複合施設 設計事業者の決定

今後のスケジュール（予定）

図書館等複合施設の供用開始 令和6年6月